

I 研究主題

子どもたちの未来に向かい、学ぶ意欲を高め、確かな学力の向上を目指す授業の創造
～ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの工夫～

II 主題設定の理由

情報化やグローバル化の「Society5.0」の時代の到来、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明で予測困難な急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。

このような中、令和3年1月の中央教育審議会答申において、個に応じた指導を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善を行い、GIGAスクール構想の実現によるICT環境の活用、及び少人数によるきめ細やかな指導体制の整備、「主体的・対話的で深い学び」を実現していくことが提言された。

本研究所においては、昨年度から3か年計画で「学ぶ意欲」、「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」をキーワードに、授業改善や学習指導の在り方を究明する研究に取り組んでいる。

今年度は、単元縦断×教科横断を意識した授業づくりの視点を取り入れた研究を具体的に進めることによって主題に迫るとともに、都城学校教育ビジョンの具現化につなげようと考えた。

III 目指す児童生徒像

「わかる」「できる」喜びを実感するとともに、学びを生活に生かそうとする児童生徒

IV 研究の目的

1 「学ぶ意欲を高める」ために

国語科は問いをもたせ方の工夫、算数・数学科は深い学びを促す学習方法の工夫を手立てとして、授業実践研究を進めることによって目指す児童生徒像である「わかる」「できる」喜びを実感させたい。それが、新たな学びのきっかけとなり、学ぶ意欲を高めることにつながると考える。

2 「確かな学力の向上」ために

国語科では、昨年度から引続きIOR学びのサイクルモデルをベースとして単元縦断の考えを意識しながら子どもの問いを生かした深い学びにつなげること、算数・数学科では、導入場面で問いをもたせるための課題（単元の課題）を提示することで単元縦断の考えを意識し、知識構成型ジグソー法や思考ツールを活用しながら「主体的・対話的で深い学び」の実現をねらうことで、児童生徒像にある「学びを生活に生かそうとする」姿に迫っていきたい。また、教科横断につながるICT活用の在り方について明らかにし、他の単元や他教科でも活用できる基礎的な力を引き上げていくことにつながると考える。

1・2においてICT活用の視点も導入し、目的に応じた1人1台端末の利活用についても模索する。また、子どもが主役の授業を目指し、都城市の「わ」「さ」「び」の視点も取り入れて研究を進める。

Ⅴ 研究構想図

